

令和 2 年 6 月 3 日現在

機関番号：23903
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2016～2019
課題番号：16K17339
研究課題名（和文）拒絶過敏性を愛着の問題として介入する非定型うつ病の対人関係療法の開発と効果検証

研究課題名（英文）interpersonal psychotherapy for atypical depression targeting on Rejection sensitivity as attachment problems

研究代表者
今井 理紗（Risa, Imai）
名古屋市立大学・医薬学総合研究院（医学）・助教

研究者番号：30769336
交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,000,000円

研究成果の概要（和文）：対人関係療法を施行後の対人過敏性は治療前と比べて有意に軽減した。対人過敏性が高いグループのみ治療後に対人過敏性が有意に減少したが、治療後の対人過敏性は治療前の全体の平均値よりも高かった。少人数の予備研究によって、併存精神疾患を持つ慢性のうつ病患者においても対人関係療法によってうつ症状が有意に軽減したものの、併存精神疾患群の数が3つ以上だと対人関係療法の治療反応が乏しい可能性が示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義
うつ病患者の一部には薬物療法、心理療法の効果が乏しいため、治療抵抗因子の同定とそれに対する治療法の開発が急務である。対人関係療法は対人過敏性を軽減させる可能性がある一方で、治療前に対人過敏性が高い症例は、治療後に軽減しても依然高く、限界があることがわかった。併存精神疾患をもつ慢性うつ病に対する対人関係療法の研究は少人数のものであるため今後はさらなる研究が必要である。

研究成果の概要（英文）：Interpersonal Sensitivity was significantly decreased after the course of interpersonal psychotherapy. In only high interpersonal sensitivity group, interpersonal sensitivity was significantly decreased after intervention. However, the score of interpersonal sensitivity after intervention in high interpersonal sensitivity was higher than the score of overall average before intervention. Depressive symptom was significantly decreased in chronic depression with psychiatric comorbidities. However, patients with over the three psychiatric comorbidities showed less change of depressive symptoms.

研究分野：対人関係療法

キーワード：対人関係療法

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

我が国の気分障害の患者数は、2008年には104万人に増加している。しかし、抗うつ薬に反応しない患者は30%、完全寛解しない患者は60%と多く、20%のうつ病患者が慢性化をきたす。薬剤抵抗性うつ病は、寛解率が1年で4%であり薬物治療で治癒する可能性は低い。また、薬物療法主体の医療が患者のニーズと合っていないことも大きな問題である。心理療法の約3倍好まれることがメタアナリシスで示されており、そのため気分障害の患者の7割以上は医療機関を受診していない。このように、薬剤抵抗性のうつ病に対し効果のある心理療法の確立と普及が必須である。

対人過敏性はうつ病の発症や予後と関連するという報告がある。また、うつ病における併存精神疾患は治療抵抗性の要因の一つであるが、対人過敏性はうつ病だけでなく不安症や摂食障害などとの関連もあるため、うつ病における併存精神疾患と関連している可能性がある。

対人過敏性について対人関係療法の前後で比べた研究や、対人過敏性と併存精神疾患との関連を調べた研究はまだない。

2. 研究の目的

1) 対人関係療法によって、対人過敏性が改善するかどうかを調べる。

2) 対人過敏性と併存精神疾患の関連について調べる。

3) 薬剤治療抵抗性の要因の一つとされている併存精神疾患のある慢性うつ病に対しても、対人関係療法によってうつ病症状が改善するかどうかを調べる。

3. 研究の方法

1) DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアルにて抑うつ障害群を満たす患者に対し、対人関係療法を16回施行した。対人関係療法は公認の治療者育成機関である対人関係療法研究会のワークショップを受講している治療者4名によって行った。対人過敏性は Interpersonal Sensitivity Measure (IPSM) を用いて、介入の前後に測定した。

2) DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアルにてうつ病エピソードを満たす患者における対人過敏 (IPSM) と併存精神疾患の数との関連を測定した。入院患者を連続サンプリングを用いてリクルートした。対人過敏や併存精神疾患の交絡因子になりうる、養育体験 (Parental Bonding Instrument) やソーシャルサポート (Confidant) も測定した。養育体験は父、母、それぞれの養護因子と保護因子を測定し、両親の平均値を用いた。

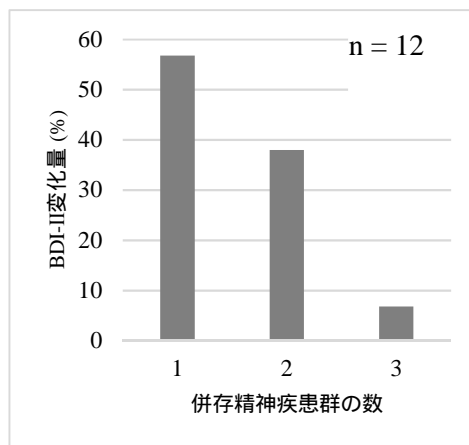
3) DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアルにて、併存精神疾患 (対人関係療法が適応できる疾患である、不安症群、食行動障害および摂食障害群、心的外傷後ストレス障害) のある慢性うつ病の患者に対し、対人関係療法を16回施行し、治療前後のうつ病症状 (ベック抑うつ質問票) を測定した。対人関係療法は公認の治療者育成機関である対人関係療法研究会のワークショップを受講している治療者によって行った。

4. 研究成果

1) 29名の抑うつ障害群の患者に対して対人関係療法を施行した。介入の前後において、対人過敏は有意に低下した (治療前 86.4 ± 12.2 , 治療後 81.0 ± 13.3 , $p = 0.009$)。下位項目においても、臆病さを除く対人意識、分離不安、脆弱な内的自己の項目にて、有意に低下を認めた。治療前に対人過敏性が高い症例と高くない症例 (今回の集団の IPSM の平均値である 86.4 を参考) における対人過敏性の変化を調べたところ、対人過敏性が高くない症例 (IPSM < 86.4) では、治療前後の対人過敏性における有意な差はなかった (治療前 75.9 ± 7.2 , 治療後 73.5 ± 10.0 , $p > 0.5$)。対人過敏性が高い症例 (IPSM ≥ 86.4) では、治療前後で対人過敏性の有意な低下がみられた (治療前 96.2 ± 5.4 , 治療後 88.0 ± 12.4 , $p = 0.01$) 一方で、治療後においても、平均値は治療前の全体の平均値 (86.4 ± 12.2) より高かった。

2) うつ病エピソードを満たす入院患者45名において、併存精神疾患の数と対人過敏の相関を調べたところ、有意に関連していた。一方で、併存精神疾患は養育体験の養護因子とも関連していた。多変量解析を行うと、養護因子と併存精神疾患の数のみ有意な結果となった。

3) 併存精神疾患のある慢性うつ病 12 名に対して対人関係療法を施行したところ、前後比較にて有意にうつ症状は改善していた。一方で、対人関係療法の適用可能な疾患の併存領域数が 3 つ以上(不安症、PTSD、摂食障害の全てを満たす)の症例に関しては、うつ症状の変化量が少ない傾向にあった。対人関係療法は疾患横断的に適用できる治療法であるものの、あまりに併存精神疾患が多いと改善しにくいことが示唆された。



5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 5件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Itoh Mariko, Hori Hiroaki, Lin Mingming, Niwa Madoka, Ino Keiko, Imai Risa, Ogawa Sei, Matsui Mie, Kamo Toshiko, Kim Yoshiharu	4. 巻 245
2. 論文標題 Memory bias and its association with memory function in women with posttraumatic stress disorder	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Affective Disorders	6. 最初と最後の頁 461 ~ 467
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jad.2018.10.365	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Narita-Ohtaki Ryoko, Hori Hiroaki, Itoh Mariko, Lin Mingming, Niwa Madoka, Ino Keiko, Imai Risa, Ogawa Sei, Sekiguchi Atsushi, Matsui Mie, Kunugi Hiroshi, Kamo Toshiko, Kim Yoshiharu	4. 巻 236
2. 論文標題 Cognitive function in Japanese women with posttraumatic stress disorder: Association with exercise habits	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Affective Disorders	6. 最初と最後の頁 306 ~ 312
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jad.2018.02.061	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Imai Risa, Hori Hiroaki, Itoh Mariko, Lin Mingming, Niwa Madoka, Ino Keiko, Ogawa Sei, Ishida Makiko, Sekiguchi Atsushi, Matsui Mie, Kunugi Hiroshi, Akechi Tatsuo, Kamo Toshiko, Kim Yoshiharu	4. 巻 102
2. 論文標題 Inflammatory markers and their possible effects on cognitive function in women with posttraumatic stress disorder	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Psychiatric Research	6. 最初と最後の頁 192 ~ 200
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jpsychires.2018.04.009	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Ogawa Sei, Kondo Masaki, Ino Keiko, Imai Risa, Ii Toshitaka, Furukawa Toshi A., Akechi Tatsuo	4. 巻 2018
2. 論文標題 Predictors of Broad Dimensions of Psychopathology among Patients with Panic Disorder after Cognitive-Behavioral Therapy	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Psychiatry Journal	6. 最初と最後の頁 1 ~ 6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1155/2018/5183834	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Risa Imai, Hiroaki Hori, Mariko Itoh, Mingming Lin, Madoka Niwa, Keiko Ino, Sei Ogawa, Atsushi Sekiguchi, Hiroshi Kunugi, Tatsuo Akechi, Toshiko Kamo, Yoshiharu Kim	4. 巻 9
2. 論文標題 Relationships of blood proinflammatory markers with psychological resilience and quality of life in civilian women with posttraumatic stress disorder.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Scientific reports	6. 最初と最後の頁 17905
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-019-54508-0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

[学会発表] 計6件(うち招待講演 1件/うち国際学会 2件)

1. 発表者名 石黒 由高, 利重 裕子, 桑原 絢也, 今井 理紗, 近藤 真前, 明智 龍男
2. 発表標題 名古屋市立大学精神科における対人関係療法勉強会での取り組み
3. 学会等名 東海精神神経学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 今井理紗, 堀 弘明, 伊藤真利子, 林 明明, 丹羽まどか, 井野敬子, 小川 成, 石田 牧子, 関口 敦, 松井 三枝, 功刀 浩, 明智龍男, 加茂登志子, 金 吉晴
2. 発表標題 PTSD女性患者における炎症マーカー: 炎症の亢進が認知機能低下に影響を与える可能性
3. 学会等名 日本生物学的精神医学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 今井理紗, 近藤真前, 井野敬子, 小川成, 赤毛太郎, 木下貴文, 松永由美子, 石黒由高, 小澤大嗣, 橋本伸彦, 高島聡, 桑原絢也, 利重裕子, 明智龍男
2. 発表標題 抑うつエピソード中の入院患者に測定した5因子性格特性・対人過敏性におけるうつ病患者と双極性障害患者との比較
3. 学会等名 日本うつ病学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Risa Imai, Masaki Kondo, Keiko Ino, Junya Kuwabara Yuko Toshishige Nishikiran Tokuyama, Masayoshi Kawabe, Tomoyuki Hirota, Hiroko Sekiguchi, Hiroko Mizushima
2. 発表標題 Can interpersonal psychotherapy improve each symptom of multi-psychiatric comorbidities? : A case series
3. 学会等名 International Society of Interpersonal Psychotherapy (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Risa Imai, Yuko Toshishige, Junya Kuwabara, Masaki Kondo, Takafumi Kinoshita, Tatsuo Akechi, Hiroko Mizushima.
2. 発表標題 Interpersonal psychotherapy for depressive episode of persistent depressive disorder with psychiatric comorbidity: A case series
3. 学会等名 International Society of Interpersonal Psychotherapy (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 今井理紗
2. 発表標題 女性の就労を支える心身医学治療戦略 働く女性への対人関係療法
3. 学会等名 日本女性心身医学会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----